

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース(季刊)
発行部数13万部・非売品

2019.04.20 Spring

No.
62

NEWS



瀬戸理事長を囲んで

**見えない、聞こえない人の防災。
災害時、障がいのある方に
私たちができること。**



Profile

滋賀県生まれ滋賀県育ち滋賀県在住。シングルマザーで息子は重度の自閉症。結婚・出産・離婚、その後障がい者団体などの事務局を経て、1992年に無認可の小規模作業所「今日も一日がんばった本舗」入職。2003年、社会福祉法人共生シンフォニー開設。NPO全国就労継続支援A型事業所協議会理事、NPOおおつ障害者の生活と労働協議会理事、滋賀県就労継続支援A型事業所協議会代表、他、団体役員多数。第10回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

A型は究極の ディーセントワーク

ここ数年、A型事業所の障害者の大量解雇や相次ぐ廃業があちこちで問題に。ほとんどが、営利・非営利を問わず新規参入組の失敗。今まで、全国のさまざまな障害者団体が、実態を目の当たりにして、この結末への警鐘を鳴らし続けてきたのになぜ行政は対応してくれなかったのか。

A型は他の福祉サービスとは違う。他のサービスは、どれだけ利用者の良いサービスを提供するかが評価となりわかりやすい。

しかし、A型は利用者としての権利の保障と福利厚生やあらゆる支援を行い、なおかつその給与分の利益を給付金を含めない事業で捻出しなければいけない。支援が高くなると生産性が落ちやすくなる。売上を上げようとする利用者には生産性を求めなければいけない。

普通の企業ならば、コストカットで人件費を減らす。消耗品や福利厚生をカットすることができるが、A型ではそれを減らすと利用者への支援の低下に繋がる場合もある。このバランスが非常に難しい。

法定雇用率も上がってきている。障がい者が企業に就職することは昔ほど難しくなっている。福祉的なA型よりも企業就労の方が望ましいかもしれない。しかし、企業ではつらい人も出てくる。だから、A型が必要なのである。セーフティーネットとして、働きたい障がい者の働ける場所が必要なのである。

新規参入が増えて、現在では全国で4000カ所以上のA型ができた。新規参入のA型は、障害者の働く場所を創るといふ目的があつて参入したと願いたい。障害者を収入としてカウントするのではなく、一人の人として働く事を支える場として欲しい。

そうなったら、日本では世界に勝る障害者の働くことに取り組む先進地となるはずである。

特に若い経営者にエールを送り、未来を託したい。私たちが囚われてできなかったことを、新しい発想と価値観でぜひ突破して欲しい。重たいお願いかも知れないが、若者の力を信じている。

※就労継続支援 A 型事業所とは：利用者と雇用契約を結び最低賃金を保障する制度

CONTENTS

表紙写真

巻頭特集で理事長と鼎談を行いました。(一財)全日本ろうあ連盟・常任理事の久松三二氏(左)、(社福)岩手県視覚障害者福祉協会・理事長の及川清隆氏(中)

- 03 瀬戸理事長を囲んで
見えない、聞こえない人の防災。
災害時、障がいのある方に
私たちができること。
- 09 2019年度福祉助成金事業
助成金決定事業所一覧

- 10 2019年度は9団体が
ジャンプアップ助成金に選定されました。
- 12 助成先レポートVol.37
合同会社農場たつかーむ(北海道有珠郡壮瞥町)
北の大地に「共生の農場」を夢見て
- 14 この街で、一緒に生きていく。障がい者のクロネコDM便配達事業
基本作業のダブルチェックで、毎日が「誤配ゼロチャレンジ」。



日本障害フォーラムが
推進するイエローボン
運動に賛同しています。

瀬戸理事長を囲んで

見えない、聞こえない人の防災。
災害時、障がいのある方に私たちができること。



左より、(一財)全日本ろうあ連盟 常任理事 久松三二氏、(社福)岩手県視覚障害者福祉協会 理事長 及川清隆氏、瀬戸理事長

「昨今、日本では地震、火山の噴火、豪雪、台風、記録的豪雨など、枚挙にいとまがないほど災害が発生しています。それと同時に、障がいのある方が置き去りにされているというニュースも聞こえてきます。ヤマト福祉財団では、定款に規定する事業目的の一つである「震災など国内緊急災害発生時には被災地の個々の生活・産業基盤の復興と再生の支援」について、今年度より「障がいのある方」を対象として加速させていく計画です。その第一歩として「障がいのある方が災害時にどのようなことで困っているのか、どのようなサポートを望まれているのか」などを、当事者からお話を伺い、参考にしていきたいことにしました。

今回お招きしたのは、(一財)全日本ろうあ連盟の久松三二(みつじ)常任理事と(社福)岩手県視覚障害者福祉協会の及川清隆理事長のお二人です。



東日本大震災の後でも

防災訓練などに変化は見られない

瀬戸 薫理事長（以下：理事長） 本日は、お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。まずはお二人の自己紹介からお願いいたします。

久松 三三氏（以下：敬称略）（一財）全日本ろうあ連盟の常任理事を務めております久松です。ろうあ者の生活、人権を守るための活動を行うとともに、さまざまな障がい者団体などと連携しながら、災害時における障がい者の避難・救援などを改善するために政策への提言も行っています。

及川 清隆氏（以下：敬称略） 岩手県の水沢町よりまいりました（社福）岩手県視覚障害者福祉協会理事長の及川です。私は、（社福）日本盲人会連合の副会長も務め、現在は、災害対策の担当もしております。これまで災害

もしも災害が襲ってきたら 障がいのある方の不安は 計り知れない

瀬戸 薫 理事長

は「予期せぬ時に訪れるもの」という感覚ですが、いまは「災害はいつでも襲ってくるもの」と考え方を換え、早急に対策を整えるため取り組みを進めています。

理事長 本日に災害はいつ襲ってくるかわかりませんが、私自身、かつて大阪に勤務していた時に阪神・淡路大震災に直面し、家具などいろいろな物が次々と横倒しになる恐ろしい経験をしました。これ以上の震災はないだろうと思っていましたら、東日本大震災が発生しました。また昨年は、大阪を偶然訪れた際に北部地震にも遭遇してしまいました。現在は、地震だけではなく水害などの自然災害も非常に増え、健常者でも、もしもの時はどうしたらよいのかと不安になりますから、障がいのある方のご苦労は計り知れません。及川さんは東日本大震災では被災地で、いろいろと恐ろしい経験もされたと思います。そういった過程を経て、震災前と震災後で防災訓練などに変化はありましたか？

及川 岩手県では、震災前から市町村ごとに防災訓練は行われていますが、震災後に障がい者を積極的に参加させるといった動きは出ていません。東日本大震災では、岩手県で35名、東北地域で119名もの視覚障がい者が亡くなられています。それでも残念ながら、あまり状況は変わっていないのです。防災対策は、当事者の意見をあまり反映されずに考えられているのではないかと、これで本当に役に立つのかと不安に感じることがあります。行政には、今後のあり方についていろいろとお話をさせていたideてはいますが、なかなか反映できずにいるのが現状です。

理事長 障がいのある方の災害時の緊急避難は、周りの方の支援なくしては難しいでしょ

う。目の見えない方、耳の聞こえない方、身体が不自由な方、それぞれをどうサポートすべきなのか。実際の訓練で体験していなければ、周りの方もどうしてよいのかわかりません。

及川 私たちは、震災での経験などを伝えていく語り部活動を全国で行っています。学校などからお招きいただくことはあるのですが、行政からはあまり声がかかりません。障がいの近隣に暮らす方に、それをサポートできる行政に、私たちの生の声を聴いて理解していただきたいと願っています。

理事長 ろうあ者の防災訓練は、どうなのでしょう。久松さんのものには、全国の施設、団体などから情報が集まっていますよね。

久松 ろうあ者も同じ状況です。震災の前も後も、地域での防災訓練は、障がい者不在のままで行われています。聞こえない、声が出せない、寝たきりの者は、健常者よりも逃げ遅れて被災しやすいのだと、だれもがわかつてはいるのに、もうひとつ改善が進んでいかない。でもそれが、いまの日本の実情です。そもそも「防災訓練を行います」と放送をされても、私たちは耳が聞こえないのでわかりません。病院や学校では訓練に参加していても、普段は家にいるのだから勝手が違います。災害に襲われたとき、どう動くべきか、周りはどう支援できるのか。東日本大震災前は、その議論さえもされていませんでした。震災後に、やっと議題にあがるようにもなったという感じですね。

理事長 まだまだこれからのですね。
久松 実際に避難警報が聞こえずに取り残されてしまった方もいますし、隣に住む方が気にして一緒に避難してくれたおかげでなんとか助かったという方もいます。

及川 近隣の方に声をかけていただき、避難



所まで手をつないで一緒に逃げてもらえたからこそ、命があったのだと話す人は多いです。

普段の生活環境と違う避難所ではストレスも不具合も増えるばかり

久松 私たちは、こうした被災地での実体験の報告をもとに、「手話で防災」という小冊子を制作・販売し、全国各地での防災と災害時の支援に役立てていただいています。

理事長 東日本大震災に直面された及川さんや会員の方は、避難所の生活でお困りになったことはありませんか？

及川 やっと避難できても、刻々と変わる状況を把握できず、ただそこに居続けるしかできなかつた、苦しいだけだったと多くの方が話しています。トイレの場所も休む場所すらわからない。貼り紙をされても情報は見えない、食事の配給の列に入れない。避難所は普段生活している自宅などとは異なる環境のため、

障がい者不在のまま 訓練や対策が進んでも 本当の改善にはならない

久松 三二 常任理事

そこでの生活についていけず、疲れ果ててしまい、家に戻ってしまったという方もいます。

理事長 それは厳しい現実ですね。

及川 ここがあなたの休む場所ですと、ダンボールでもよいからスペースを囲んでいただき、手探りで動けるようにしてもらえたら助かります。目が見えない私たちが一番困るのは、広いスペースにただ放置されてしまうこと。これが最も辛いのです。

理事長 私はマラソンをやっていますが、ブランドマラソンの方は伴走者と一緒にいるので一目でわかり、もしもの時には周りも自然にサポートできます。でも避難所で他の方と一緒にいると、わかりにくいですね。

久松 ろうあ者の場合は、よりわかりにくいと思います。話しをして違和感を感じて、はじめてろうあ者なのだ認識できる感じです。
理事長 なるほど。避難所では、障がいのある方だと一目でわかる目印のようなものがほし

いですね。

及川 じつは、震災後、私たちは視覚障がい者の防災ベストを作成しました。それを着ていけば、すぐに周りが「この人は目が見えないのだ」とわかるようにデザインしています。(次ページ写真参照)

理事長 それはよいですね。

及川 こういった物も含め、避難所での環境改善に行政が動いていただけると助かるのですが、対策はなかなか進んでいません。

理事長 いまのままだと町内会やご近所の方、ご家族に頼るしかなく、負担がどんどん増えていく。それは当事者にも支える方にも辛いことです。地方自治体などがハザードマップを作成されていますが、これについては？

及川 視覚障がい者でも触ることで地図を読み取れる「点図・触地図」というものも存在しますが、それだけではあまり役に立ってはいけません。実際に災害訓練に参加して、避難経

(一財)全日本ろうあ連盟

ろう者の人権を尊重し文化水準の向上を図り、その福祉を増進することを目的とする(一財)全日本ろうあ連盟は、全国47都道府県に傘下団体を擁する全国唯一のろう者の当事者団体です。その基本的な取り組みは、次の三つとなっています。

- 1.手話通訳の認知・手話通訳事業の制度化
- 2.聴覚障害を理由とする差別的な処遇の撤廃
- 3.聴覚障害者の社会参加と自立の推進

また、もしもの災害時にろうあ者への支援をスムーズに行えるように、被災した多くのろうあ者やご家族、支援にあたった方たちからの経験や意見をもとに「手話で防災」という小冊子を制作。さらに東日本大震災では、各避難所での安否確認などの支援もスムーズに行えるように急遽チラシを作成し配布するなど、ろうあ者の支援に努めています。



聴覚障がい者の災害時支援のための小冊子「手話で防災」(左)、避難所に配布したチラシ(右)

詳しくは連盟のホームページへ <https://www.jfd.or.jp>

路を歩き避難所まで行って、はじめてどう動けば良いのかも実感できるわけです。

理事長 経験が、なによりも大事なのです。及川 ハザードマップの作成も、障がい者抜きで進んでいる感はありません。たとえば、避難所は高台に指定されていることが多いですが、一般の人の感覚で歩いて何分と言われても、目が見えない方はもっと時間がかかります。

久松 勾配がきつ過ぎたり、段差があつては車椅子で簡単に移動できません。どこに段差があり、スロープを設けているかなどを示しているようなマップをつくってほしいのです。さらに、避難所が複数指定されている場合、災害によっては通常使うAの避難所ではなく、Bの避難所に向かえと緊急放送がありますが、私達にはその放送が聞こえないため、間違つた場所へと進んでしまいます。

及川 障がい者の立場になって、どうすればその情報を活かすことができるのか、どうす



民間企業の専門ノウハウが 被災地の障がい者を救う 大きな力に

及川 清隆 理事長

れば正しく伝わるのかをしっかりと考えていただきたいものです。

障がい者の安否確認は

災害時の重要な課題の一つ

理事長 久松さんは、東日本大震災で被災地の支援に、いろいろと動き回られていたわけですが、そこで感じたことは？

久松 先ほど及川さんも触れられましたが、避難所が私に痛感したのは、情報格差です。震災発生時、私は東京にいたのですが、大きな津波がきているなどのニュースを見て、いまままでに経験したことのない大災害が起きているのだと驚きました。しかし、東北三県で被災した多くのろうあ者には、刻々と変化する災害状況は伝わってこなかったようです。また、避難物資が届いたと周りの人が動き出しても、耳が聞こえないのでなにが起きているのかわからない。状況を理解した時には、もう食料も物

(社福)岩手県視覚障害者福祉協会

目の見えない者の立場を、気持ちも多くの方に理解いただき、本人が社会的に自立できるように支えています。(社福)岩手県視覚障害者福祉協会は、「岩手マッサーセンター」を設置経営し、視覚障害者の方々の自立更生と、地域の方の治療と健康維持の一翼を担っています。その活動目的は、次の五つです。

1. 視覚障害者の自立支援
2. 視覚障害者本意の生活支援
3. 開かれた経営
4. 障害者福祉の一体活動
5. 地域と共生の福祉活動

災害時の支援活動としては、東日本大震災で被災地となった岩手県だからこそわかる避難や避難所での支援のあり方などを県に提言。「視覚障害者用防災ベスト」を制作・販売するなど、より具体的な支援を進めています。

詳しくは協会のホームページへ <http://www.iwate-sfk.com/>



背中と胸に盲人のための国際シンボルマークをデザインした「視覚障害者用防災ベスト」

視覚障がい者防災用品に関しては <http://nichimou.org/>
日本盲人会連合ホームページへ

資もなくなっていたなどということも報告されています。こうした情報格差をどうやって解消するかは重要な課題です。

理事長 誰にもわかりやすく、迅速に伝えていくことは、災害時には大切なことです。

久松 もう一つ大きな問題点が、安否確認です。全国で耳が不自由な方は約36万人いると言われていますが、障がい者手帳を持つ方は約2万人です。これは地域性の問題でもあるのですが、東北では、障がい者は引きこもって生活している場合が多く、周りの方たちはどうもそういう人がいるらしい」といった認識でしかない。そのため、いざ災害に襲われたとき、避難所で安否確認が取れませんでした。

及川 私も安否確認で苦労しました。当協会の会員となっている方は、避難所に連絡を取り、確認もできましたし、住所もわかっているのに訪ねていく確認を取ることができません。しかし、会員でない方はどうにもならない。こ

の地域に住む障がい者の情報を教えてほしいと行政をお願いしても、個人情報保護のためダメだと断られてしまいました。

理事長 被災地に障がいのある方が何人いるのかもわからないということですか？

及川 はい、そこは行政に頼るしかないのですが、マニュアル通りにしか動いてくれませんが、「原則」と書かれているのは、それだけがすべてではないという意味であるはずなのに、臨機応変に対応できない。判断が難しいのはわかりませんが、命より重いものはないはずですが。

久松 協力をお願いしても、多くの方が被災して困っているのだから、障がい者の個別支援にまでは手がまわらない、ひいきはできないと言う。障がい者がどこにいるのかがつかめなければ、私たちも動きようがないのです。

理事長 そうなってくると、日頃の周りの方とのつながりに頼るしかなくなってきましたね。
久松 結局、東日本大震災では、手話サークル団体など、民間の協力者の力が大きな手助けとなりました。これを教訓に、私たちはネットワークをより広く強く築くことと現地でコーディネーターとしてコントロールできる人材の育成に力を入れるようになりました。

及川 現在、私たちは行政の柔軟な対応を求め、障がい者支援の他の団体とも力を合わせて、さまざまな提言をしています。なかなか進展はしていません。だからこそ、民間企業を含めてより多くの方の協力が必要になります。民間企業は、各分野のスペシャリストです。例えば、ヤマトさんは宅急便配達で培われた流通や情報のネットワーク、専門ノウハウをお持ちです。それを災害時の支援に役立てていただきたいと願っています。

久松 今、思ったのですが、ヤマトさんのクロ



ネコメンバーズアプリに、障がい者が自分の情報を登録しておき、災害時に我々など関連団体に開示していただくというのはどうでしょうか。

理事長 生き残るための情報開示ですね。

久松 ぜひよろしくお願いします。

理事長 東日本大震災では、全国から届けられた救援物資の管理と配達が問題となりました。そこで気仙沼では、ヤマトグループの社員が在庫管理や仕分けなどのお手伝いをしたのです。おかげで物資がスムーズに行き渡るようになったと感謝されました。

久松 救援物資が山積みそのまま、早く必要とする人のもとに届けてほしいと切に思った記憶があります。ヤマトさんのような特別なノウハウは、私たちにも行政にもありませんから、ぜひお力を貸していただきたいです。

理事長 ヤマトグループでは、東日本大震災の教訓をもとに、スマートフォンを使った社員の安否確認システムをつくりました。昨年9月に発生した北海道胆振（いぶり）東部地震の際に、その効果も実証されました。

及川 そういった災害時でのノウハウも、障がい者の支援に活用させてほしいものです。

近隣に住む人や働く人とのつながりこそ、なによりも大切

理事長 今後さらにIT化が進み、顔認証システムなどを活用すれば、安否確認もよりスムーズになるかもしれませんね。

及川 確かに技術は進化していますが、私たちには不便なことも多々あります。たとえばスマートフォンなどのタッチパネルは目が見えないと逆に使いにくいものとなります。また、被災地ではガスや電気がとまってしまう可能

性があり、ITだけに頼るのは危険かもしれません。

理事長 一番頼りになるのは、周りの方とのつながり、コミュニケーションですね。

久松 私は、宅急便をよく利用していますが、集配センターなどの職員の対応にはいつも感心しています。私がろうあ者だと察すると、こちらがお願いしなくても、ずっと筆談用のメモを出してくれたり、FAXで連絡が取れるように手配してくれます。いろいろな企業を見てきましたが、こうした対応を自然に行えるところはなかなかありません。どのような教育をされているのですか？

理事長 特別な教育はしていませんが、ヤマトグループの社員は、賛助会員としてまた労働組合のカンパ活動などで、障がい者を支援しています。自分でお金を出しているからこそ障がい者への関心も高く、このヤマト福祉財団NEWSもご家族と一緒に読んでもらっています。普段から障がい者の声や事情を知る機会があるので、お話しただけのような対応

も、自ら考え、行動に移すことができるのだと思います。

及川 やはり私たちのことをもっと、理解していただくことが、より多くの方や企業に、ご協力いただく第一歩となるのでしょうか。

理事長 最後に、私たちにできること、ご要望はありますか？

及川 社員のみなさんは、担当されているお客さまの中に障がい者がいることは把握されているでしょうか。災害時には、どうぞお声がけしてください。

久松 災害が発生すれば、社員のみなさんも同じ被災者です。大変だと思いますが、手が貸していただける方がいらっしやいましたら、ぜひ力を貸していただきたいと思っています。

理事長 我々としても、みなさんのご期待に添えるように、ヤマトグループとして、一人の社員として、今後なにができるかを研究・検討していきたいと思っています。本日は、どうもありがとうございました。

お二人 こちらこそありがとうございました。

ヤマト福祉財団は胆振東部地震で被災した施設2カ所に復興再生助成金を贈呈しました。

2月21日、ヤマト運輸(株)千歳主管支店にて、胆振東部地震で震源地にあった厚真町、むかわ町の施設2カ所に復興再生助成金を贈呈しました。

- ・(社福)厚真福祉会 入浴用担架・電動昇降ストレッチャー各2台、PHS電話機等 3,000,000円
- ・(社福)愛誠会 グループホームの照明・暖房設備等 2,973,200円

胆振東部地震被災施設への助成は、11月に贈呈した札幌の施設と合わせて 総額8,973,200円となりました。



松井北海道支社長(右)から、(社福)愛誠会横山宏史理事長へ贈呈



左より奈良岡千歳支部執行委員長、厚真福祉会の岩筋雅弘理事長、愛誠会の横山宏史理事長、松井支社長

災害時、障がい者はこんなことで困っています

聴覚に障がいのある方は…

- ・防災無線や広報車、館内アナウンスの声が聞こえません。
- ・テレビに字幕・手話がないと災害の様子がわかりません。
- ・聞こえないので、声をかけられても無視していると誤解されます。
- ・停電になり暗くなると、手話や筆談ができず、とても不安になります。

視覚に障がいのある方は…

- ・大勢の人が避難する中、人波に押され転倒してケガをする心配があります。
- ・災害で物が倒れていたり浸水していたり、普段との違いがわからずに困っています。
- ・避難所では、周りの状況が見えず身動きが取りづらくなっています。
- ・食料配給、状況変化などを伝える貼り紙を読めません。

私たちにも、できることがあります！

- ・避難をするとき、聞こえない人がいたら誘って一緒に逃げてください。
- ・手話ができなくても、筆談やゆっくりと口を動かして話かけてください。
- ・アナウンスなどの内容を紙に書いて、掲示板などに貼り出してください。
- ・相談受付などに一緒に行ってください。

- ・避難をするとき、目が見えない人がいたら誘って一緒に逃げてください。
- ・障害物、段差などがあるときは、声かけや手を取り誘導してください。
- ・避難所ではトイレや相談受付の場所、貼り紙の内容など視覚情報を伝えてください。
- ・避難所で移動に困っていたら手を貸してください。

※他にも私たちにできることは、いろいろとあります。コミュニケーションを取りながら、必要な場合は一緒に行動してあげてください。

2019年度福祉助成金事業 助成金決定事業所一覧

(助成金額合計: 8,277万円)



I. 障がい者給料増額支援助成金 決定一覧

1. ジャンプアップ助成金 (定額500万円)

単位(万円)

所在地	福祉事業所・団体名	助成対象	助成額
宮城県宮城郡	みおセケ浜	缶詰巻締機と小型レトルト機購入資金	500
宮城県仙台市宮城野区	びあ	ベーカリー、菓子製造の機器購入および電気工事等の資金	500
栃木県大田原市	hikari no café蜂巣小珈琲店	改修工事および設計監理資金	500
群馬県邑楽郡	多機能型事業所のみ	トラクター購入資金	500
愛知県瀬戸市	かいこ	作業棟の増築工事資金	500
島根県松江市	わこうの里	トラクターおよび作業機(畝立機、キャベツ・玉ねぎ・さつま芋の定植機)購入資金	500
長崎県佐世保市	マザーワート就労支援	製パン工程効率化のための計量分割機購入資金	500
大分県豊後大野市	ロイヤルウォッシュ	ガウンフォルダー購入資金	500
大分県日田市	障がい福祉サービス事業ぴいたぁパン	パン生地分割機購入資金	500

2. ステップアップ助成金 (上限額200万円)

単位(万円)

所在地	福祉事業所・団体名	助成対象	助成額
北海道留萌郡	ほっぷすてつぱ	私物用小型高温高圧調理機の購入資金	200
北海道厚岸郡	のんき村	畑作りのための小型トラクター購入資金	150
北海道砂川市	障害者自立支援施設くるみ	ソフトクリームフリーザー等購入、動力設備増設工事および厨房改修資金	118
山形県米沢市	フラワーコート米沢	配達車両の購入資金	120
群馬県高崎市	障害福祉サービス事業所エール	ドラム式30kg乾燥機購入資金	200
東京都武蔵野市	ワークイン中町	小型区分けシステム(PA200CV/ST)の設備導入資金	200
静岡県富士宮市	EPO FARM	羊園場整備資金	200
愛知県名古屋市中川区	わーくす昭和橋	肉まん増産のための生地冷凍発酵機購入資金	199
大阪府岸和田市	東山自立センター	オンデマンド印刷機の増設資金	200
香川県高松市	らでいっしゅ	倉庫スペースの厨房改修工事資金	200
高知県南国市	きてみいや	小型トラクター購入資金	110
福岡県福岡市西区	レストランゆずのき	食器洗浄器、冷蔵ケース、電磁調理器の購入資金	200
福岡県福岡市南区	障害福祉サービス事業多機能型みらい	ランドリー仕上機購入資金	200
大分県宇佐市	福祉サービス事業所さすな	ビニールハウスの整備資金	200
宮崎県日南市	障害福祉サービス事業所サン・スマイル	クックチルシステム導入および厨房機器購入資金	200
宮崎県都城市	就労継続支援事業所太陽	菓の自動結束機購入資金	195

II. 障がい者福祉助成金 決定一覧 (上限額100万円)

単位(万円)

所在地	福祉事業所・団体名	助成対象	申請区分	助成額
北海道札幌市北区	障がいのある方の全国テレワーク推進ネットワーク	「障害のある方のテレワーク実践を語る会議」開催事業(全障テレネット協働推進事業)	会議	100
神奈川県横浜市緑区	特定非営利活動法人フトーロ	民間機関療育的指導に参加した発達障がいを持つ方々の予後研究事業II	研究	50
神奈川県横浜市中区	一般社団法人スローコミュニケーション	ブックレット『知的障がい者への情報保障-権利・配慮のあり方とわかりやすさの工夫-』出版事業	出版	100
東京都新宿区	医療機関の障害者雇用ネットワーク	「夢を叶えるDoctor's Network」事業	啓発	100
東京都港区	一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟	2019DMS CUP連盟杯争奪第28回全日本車いすバスケットボール競技大会	スポーツ	100
東京都北区	NPO法人北区障害者団体連合会	喫茶へGO! 売上げUP大作戦!! 事業	啓発	30
東京都新宿区	社会福祉法人日本盲人会連合	弱視者への理解を促進するための啓発事業	啓発	85
東京都千代田区	NPO法人日本バリアフリー協会	フュージョンマーケット第1回グランプリ	文化	100
東京都千代田区	認定NPO法人ミュージック・シェアリング	ミュージック・シェアリング合同コンサート	文化	40
新潟県新潟市中央区	ブラダー・ウィリー症候群協会新潟「有志の会」	絵本「ほくを少しだけ分かってほしい」出版事業	出版	80
京都府京都市上京区	公益社団法人認知症の人と家族の会	認知症の人と家族のためのハンドブック作成と正しい知識の普及啓発事業	出版	100

2019年度
助成金事業

2019年度は9団体が ジャンプアップ助成金に選定されました。

福祉施設が「経済力」を兼ね備えることが、障がい者の真の自立には不可欠です。そのお手伝いとして、すでに障がい者の給料アップに実績がある事業所に対し、さらなる飛躍のための事業資金(500万円)を助成しました。

マザーワート就労支援（長崎県佐世保市）

就労継続B型

製パン工程効率化のための自動化機械の購入

●2017年度平均給料 30,118円(18人) ●2020年度目標給料 45,000円(20人)



自動化機械の導入で日量350斤へ

マザーワートでは無添加・アレルギーフリーのパンも展開しており、豊富なラインナップと柔らかな食感のパンでリピーターを獲得しています。2017年度は食パンベースで日量210斤(70斤×3サイクル)のパンを製造しました。年々受注も増えていますが、さらに現在は近隣の学校や幼稚園等から新規受注の相談を受けています。しかし設備、人員ともに余力がなく生産量を上げることができません。

これを打開するために、現状2カ所ある作業所を集約するとともに、助成金を活用して製パン工程を一部自動化できるパン生地自動分割機を導入することにより解決を図ります。利用者の負担を減らしながら製造効率をアップすることが可能となり、日量350斤(70斤×5サイクル)に生産量を上げることができると見込まれます。この生産量の増加によって売上を月間200万円まで伸ばし、収益を増やして月額5万円への給料増額を目指します。

多機能型事業所 のぞみ（群馬県邑楽郡大泉町）

就労継続B型

農福連携事業のためのトラクター購入

●2017年度平均給料 40,596円(60人)
●2020年度目標給料 45,343円(68人)

二毛作の実現で地粉うどんを6次産業化



のぞみでは、基本姿勢の一つとして、“地域貢献を図りながら障がい者の社会復帰を目指すこと”を挙げており、そのために農業を実践。高齢化が進む地域農業の受け皿として2007年度より1.5haで米作りを始め、2018年度には8haまで拡大しています。しかし、現在使用しているトラクター(41HP)では能力上これ以上耕作面積を増やすことができません。

今回の助成によって現在のものより能力がはるかに大きい70HP程度のトラクターを導入すれば、米と小麦の二毛作を実現することができ、その小麦によって地粉うどんの6次産業化が実現、さらに耕作放棄地を引き受けて耕作面積を拡大することができます。

具体的には米の収穫を35トンから54トンに、小麦の収穫は0から10トンに増加させる予定です。耕作面積拡大と二毛作による増産・6次産業化で収入アップと工賃アップにつなげます。

ロイヤルウォッシュ（大分県豊後大野市）

就労継続A型

ガウンフォルダーの購入

●2017年度平均給料 75,750円(23人)
●2020年度目標給料 107,692円(26人)

新規機械で人員配置を適正化



ロイヤルウォッシュのクリーニング業は、リネンサプライ事業部と私物クリーニング事業部があります。近年インバウンドの影響により観光業界は大変盛況で、それにもないホテルで使用するリネンの仕事が増えています。その中で扱う洗濯物に現在の機械ではたためないバスローブや作業衣などが数多くあります。これらをたためるガウンフォルダーという機械を導入することにより、たたみの作業効率は6倍に。現在リネンサプライ事業部に配置している4名の人員を1名にすることができます。

残りの3名は私物クリーニング事業部に配置して、売上が増加している私物クリーニングへ対応。私物クリーニングは一人1施設担当のためマイペースで作業ができ、利用者の方の勤務時間を長くする声掛けが容易となるので、利用時間の引き上げを目指します。助成金活用により適正な人員配置を行い、労働生産性を高めて全体の売上と賃金アップを図る予定です。

障がい福祉サービス事業びいたぁパン（大分県日田市） | 就労継続B型

パン生地分割機の購入

●2017年度平均給料	38,415円(19人)
●2020年度目標給料	50,926円(18人)

機械導入で1日200個増産、3万円の売上増



びいたぁパンではパンの製造・販売事業などを行っています。パン事業の売上は年間3000万円以上ですが、パン生地を適正分量に切り分け丸める作業には3人が必要です。

助成によりパン生地分割機を導入するとその作業が1人で行え、分量の正確性も向上、時間も短縮。同作業から外れた2人はパンの成形作業に回ることにより、1日200個増産、売上増3万円が期待でき、月額工賃の大幅なアップが可能となります。

かいこ（愛知県瀬戸市） | 就労継続B型

作業棟の増築工事費用

●2017年度平均給料	23,705円(20人)
●2020年度目標給料	28,500円(20人)

パン、焼き菓子、軽作業の独立で環境改善



現在、ベーカリー班でパン・焼き菓子の製造、軽作業班で便利屋と内職作業を行っています。パンは年間約2000万円の売上があり、パンの仕事が増えるにつれて焼き菓子と共用の部屋が狭くなってきました。今回の助成によって作業棟の増築を行い、内職作業を移します。既存施設内を有効に活用して焼き菓子製造の部屋を独立させ、パン、焼き菓子、軽作業のいずれも作業環境を改善して売上増を見込み、あわせて利益アップ、工賃アップにつなげます。

わこうの里（島根県松江市） | 就労継続B型

トラクターおよび作業機の購入

●2017年度平均給料	24,429円(13人)
●2020年度目標給料	26,938円(16人)

各種作業機で定植時間の大幅な短縮



当事業所では農産物の生産、加工販売を行っています。生産物は水稲と路地野菜。野菜はキャベツ、タマネギなど。近年廃業する農家が多いため、これらの露地野菜の供給が追いつかず、栽培面積と一般販売の拡大を計画しています。

ハイクリアランストラクターと畝立機、キャベツ定植機などの作業機を導入し、作業効率向上と利用者の負担軽減を図ります。これにより、生産高、収入の拡大ばかりでなく高品質の作物を生産することができます。

みお七ヶ浜（宮城県宮城郡七ヶ浜町） | 就労継続B型

缶詰巻締機と小型レトルト機の購入

●2017年度平均給料	28,108円(29人)
●2020年度目標給料	35,494円(27人)

「牛タン缶詰」事業の委託費減で利益を



みお七ヶ浜の食品加工事業で扱うブランド豚は、価格競争で苦戦して利益が少なくなっています。そこで新たに「缶詰製造事業」を展開することにしました。当事業所で受注・発送・在庫管理業務を行っている「牛タン缶詰」事業について、現在は民間企業に製造委託している缶詰を自前で製造したい。この助成によって缶詰巻締機と小型レトルト機を購入することで自前製造が実現でき、委託費を減らしたことによる利益分を利用者賃金に充てる予定です。

hikari no café 蜂巣小珈琲店（栃木県大田原市） | 就労継続B型

廃校利用のための改修工事費・設計監理費用

●2017年度平均給料	22,880円(13人)
●2020年度目標給料	30,049円(17人)

家庭科室改修でスペースと安全性を確保



築90年の廃校小学校を活用して菓子製造、パン製造販売の事業を行っています。製品目目の増加や利用者の増加により作業スペースの狭小化が進み、安全性を確保することも難しくなってきました。これらを改善するために、現在あまり使われていない家庭科室や音楽室を改修し事業サービス向上のためのスペースと安全性の確保を図りたいと思います。そして売上と収益を伸ばし、工賃の5000円以上アップを目標とします。

ぴあ（宮城県仙台市） | 就労継続B型

ベーカリー、菓子用機器購入および電気工事等費用

●2017年度平均給料	34,123円(28人)
●2020年度目標給料	38,000円(34人)

事業統合による多能工化で工賃向上



現在、弁当の製造・販売事業を行っていますが、新たに立ち上げるベーカリー、菓子製造・販売事業との統合により利用者、職員の多能工化を実現します。既存の法人の建物空きスペースに、今回の助成金によってベーカリー、菓子用機器を購入し、電気工事を行うことによって新事業が開始できます。また今年合併した法人のベーカリー部門の製造・管理技術も活用可能です。新規事業により売上を拡大し、利用者の工賃向上の実現に向かいます。

北の大地に「共生の農場」を夢見て

雄大な洞爺湖と今も活発な有珠山を有する壮瞥町。北海道では温暖な地域に属し、観光のみならず農業が盛んです。32年前、一組の夫婦と養護学校の卒業生3名がこの地で50羽の養鶏を始めました。「農場たつかーむ」の始まりです。志を大切に、一歩ずつ前進してきたその足跡を伺いました。

Data

合同会社農場たつかーむ
北海道有珠郡壮瞥町

①たつかーむの全景、1階にたまごセンター、2階はたまごcafe(夏季のみ営業) ②助成を得て新設した鶏舎のハウス2棟 ③近くのわき水を引いた自家水道から毎朝バケツで、ニワトリの飲み水を選ぶ。かなりの重労働 ④朝採りたまごの回収に餌やり、鶏舎の掃除など、平飼いは圧倒的に手間が掛かる ⑤朝採りたまご「たつかの恵み」¥500、加工商品のゆで豆¥270とたつかーむの廃鶏を使ったチキンカレー¥500 ⑥一人で1日約2,000個のたまごを洗う ⑦たまごの選別を担当するのは代表と一緒にたつかーむをつくってきた奥様の利志子さん ⑧たまごかけごはんのランチ(たまごcafe) ⑨2000年の有珠山噴火では避難指示の広がり、すべてのニワトリを放棄する寸前までいったと、苦労を振り返る設立者の高野律雄さん ⑩ニワトリの健康チェックは重要な仕事。ニワトリ語がわかると話す金澤さんは「元気かな?」と話しかける



安心して口にできるものしか作らない
有珠山の姿を間近に見とれることのできる農場に2017年12月、2棟のビニールハウス鶏舎が建ちました。木造の古い鶏舎に混じって新設されたこれらは、当財団の助成を活用して増舎したものです。

「30年前に廃材で作った掘っ立ての鶏舎はもう老朽化がひどくて、いつ倒れてもおかしくなかった」と語るのは、代表社員で設立者の高野律雄さん。

ビニールハウスの中は5つの区画に区切られていて、その一区画ごとが10坪ほどの鶏舎となつています。訪問したのは2月。暖房もしていないというのに、中は予想外の温かさ。鶏舎の中を元気に走り回る約100羽のニワトリたちが、自然と舎内の空気を暖めているのでしょうか。狭いケージに閉じ込めず、ニワトリたちを自由に運動できるようにした「平飼い」は土地が10倍近くは必要となつて、給餌、集卵、鶏舎の清掃など、大規模養鶏にくらべ数段の手間は掛かりますが、健康的な飼育環境で、より美味しくより安心できる卵を産んでくれます。

環境に配慮し、安全で安心できる食品を誇り

をもって生産する。それも働く人の障がいの有無に関わらず。それは「たつかーむ」がこの地で農業に携わって以来、一貫して守ってきたポリシーです。高野さんご夫婦が東京から、この壮瞥町に移ってきたのは1986年のことでした。

ともに自立するために選んだ農場

もともと静岡のご出身だという高野さん。高校を卒業して東京に出て大学で心理学を学ぶ中で、自閉症の子どもたちとの出会いがありました。魅力的な彼らと関わっているうちに「これを仕事にしよう」と決めていった。

卒業後は福祉の現場で働きながら、彼らと自分の将来を探しました。「いろいろ考えるうちに、基本に戻って農村的な暮らし、農的な仕事に大人となった彼らに向いているのではないかと」そう見極めると、30歳を機に高野さんは東京を離れて、奥様の「実家があった北海道へ。新規就農のための研修を受け、32歳のときに壮瞥町に落ち着きました。

「当時は有吉佐和子さんの小説『複合汚染』が反響を呼んでいたころ。やるんだと思ったら自分は有機農業をやろう。家畜を飼って、その糞を肥料にして作物を育てる」という循環で...



8



9



7



5



6



10

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 32

ヤマト運輸労働組合
千歳支部執行委員長
奈良岡 晃さん



もっと理解と誇りを持つべきだ

高野さんとお話して「自閉症は個性」だということがよく分かりました。また、卵の持つ不思議さとか、ニワトリのことも勉強になりおもしろかったです。黄身がレモン色をしているのは飼料に小麦を与えているためだそうです。とても美味しかったです。

夏のカンパがどのように使われているのかを、自分の目で確認して思ったのは、もっと私たちは誇りを持っていいと。障がい者を応援することを「企業姿勢」の5番目に私たちは謳っています。そんな会社はそうそうありません。カンパ活動も相当にすごいこと。見つめ直してみれば、そう言えるのではないのでしょうか。



の土地を購入してニワトリ50羽からのスタートでした。しかし、畑で育てた露地野菜はすぐにはまとまった収入には結びつかず、その一方で、養鶏はトントン拍子。好評を得て3年目には早くも2000羽まで規模を増やしました。

—— バトンはつないでこそ

とはいえ、ニワトリの健康には大いに気を遣います。365日休みなく面倒を見て、病気や害獣から守らなければなりません。餌はポストハ―ベストをしていますが、その確保も簡単なことだわって集めていますが、その確保も簡単なことではありません。大雪で2018年2月には古い鶏舎が5棟ほど倒壊しました。「500羽分です。助成の新設鶏舎がもしなかったら…。助かりました」

チキンカレーなど加工食品製造と夏季のカフェ事業も合わせ、現在の売上は3800万円強。どうか給料はA型で11万円以上、B型で6・5万円を実現させました。

今後の事業についてお伺いすると、「後の者に任せようと思っています」と高野さん。「今、盛んに農福連携という言葉が使われています。うちもその走りです。農福連携にもいろいろな形があります。とにかく一緒に生活して一緒に働く」というのを僕はやってきて、その方向性はだいたいできたと思います。地域の人も僕たちがやっていることを特別視しないようになりましょう。この先は僕を気にせず、若い人たちがやってみたい夢を試せる場になればいいかな」北の大地で産まれた卵が新たにどんな夢を宿して孵るのか？ これからもますます注目です。

この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコDM便配達事業

基本作業のダブルチェックで、 毎日が「誤配ゼロチャレンジ」。

神奈川県川崎市高津区。東急電鉄田園都市線溝の口駅からバスに乗って約20分。横浜と川崎の市境の住宅地で、社会福祉法人 県央福祉会 地域活動支援センター「つばさ」は、約9年前にクロネコDM便配達をスタートしました。配達数は1日約120冊。4人のメイトさんが中心となって、元気に配達しています。



記憶力が抜群で、情報リーダーの飯出翔吾さん(右)。「もう地図はすべて頭に入っていますし、いつも町を歩いて情報を更新しています。以前担当していた宅急便の配達をまたやりたい」。森恒春さん(左)は「方向音痴だけれど、仲間がいれば大丈夫。配達そのものが好きなので、これからも続けて行きたい」と話します。

地域活動支援センター「つばさ」がクロネコDM便配達を開始したのは、2010年。「障がい者のクロネコメール便(後にDM便)事業」を当時の所長が知り、DM便配達を活動の中心に据えて施設を立ち上げたのが始まりです。スタート当初、メイトさんは5人でしたが、今では登録しているメイトさんは16人。その中から4人のメンバーが中心となり、徒歩でカートを引きながら配達をしています。

すべての作業を ダブルチェック

「つばさ」の仕分け作業のための部屋には、『作業の流れ』というタイトルの大きな紙が貼られています。書かれているのは、仕分けの順番と作業内容。この表に沿って、この日仕分けを任された森恒春さんと、今野満幸さんがテキパキと作業を始めました。

最初は「①かぞえ」。ヤマト運輸が運搬してきた箱に書かれている



▲赤い丸が配達先。“どの道のどの角を曲がると効率的か”を相談して、配達順番を書き込みます。

川崎市高津区

DM便の冊数と、実際の冊数が合っているかを確かめるステップ。
まず、2人でDM便を10冊ずつの束にして冊数を確認します。数えてみると、箱には63冊と表記されていましたが、62冊しかありません。再度丁寧に数え直すと、今度は63冊。

注意すべきDM便は 地図に「X」印

④丸付けと読み上げ」では、1人が番地と名前を読み上げて、もう1人が地図に赤い丸を付けていきます。名前を読み上げた後に「X」印と「X」印を地図にマーカー。ポストに入らないかもしれない厚みのあるものなど、注意の必要なものは特別に「X」印と呼んで、別の場所に分けて置きます。

そして「⑤ルート決め」。今回は今野さんが配達ルートを決める役割

●川崎主管支店 高津久未センター

面積3.02km²/人口41,391人/世帯数18,450世帯

●社会福祉法人 県央福祉会 地域活動支援センター「つばさ」

2010年10月、クロネコメール便(DM便)をスタート。1日の配達冊数は約120冊。他にはノズル清掃、チラシ折り、シール貼り、仏器磨きなど。

「障がい者のクロネコDM便配達事業」

参入施設数 321施設 従事者数 1,638人(2019年2月現在)

お問い合わせは……(公財)ヤマト福祉財団 DM便担当

TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165

http://www.yamato-fukushi.jp/

※ 2015年4月1日より、クロネコメール便配達にはクロネコDM便配達へと変わりました。



▲必ず地図で確認し、ポストとDM便の住所と名前を照らし合わせてから投函する、井上克貴さん(右)。▲端末機を操作する飯出翔吾さん(右)とカートを引く森恒春さん(左)。



▲リーダーシップを発揮し、面倒見がいい井上克貴さん(右)。「慣れない人が難しいと思うのはどこだろうと考えて、わかりやすくサポートしてあげるのが好き」。フットワークの軽い今野満幸さん(左)。配達の際、不明なことは「魔法のノート」ですぐにチェックします。

◀ポストではなく、必ず手渡しでと頼まれている会社へ、元気にDM便を届ける飯出翔吾さん(右)。

何度も確認してから ポストイン

を担っています。地図全体を見渡しながら、赤丸の位置を確認。どのルートが効率よく回れるか悩んでいると、職員の阿久津真由美さんがアドバイス。スムーズに回れるルートが決まり、今野さんは配達する順番を地図に緑色のペンで書き込みます。ラストは「⑥組み立て」。ここでは1人が地図を見て、配達順に番地と名前を読み上げ、もう1人がそれを確認しながらDM便をバッグに入れていきます。「コメー」のDM便は別の袋に入れて、仕分けが完了しました。

配達は1チームにメイトさんが2人と、職員が1人。毎朝メンバーを

選んで2つのチームを作り、配達をします。冊数が少なくて時間があるときは、慣れない人も加わり、主力メンバーが作業を教えてあげながら配達します。

投函の前には、確認タイム。バッグからDM便を取り出す人が番地と名前を読み上げて、もう1人のメイトさんに手渡します。受け取ったメイトさんは、地図で確認。さらに、ポストの前で、表札やDM便を再度チェックし、端末機を操作してからポストインします。

雨の日と猛暑の日は 団地から配る

雨の日や日差しが強い日は、団地の多いエリアからスタートするのが基本ルール。屋内のポストで雨が避けられ、日陰になる場所もたくさんあるからです。戸建ての多い住宅街は日陰が少ないので、夏場は36度以上になると、配達は一息お休み。暑さのピークが過ぎるまで待つ、などの対策が取られています。暑い日は休憩を3回取る、必ず水筒を持って保冷剤をクビに巻いたり帽子の中に入れてたりする、などの細かなルールも決められています。

魔法のノートと地図は たからもの

「つばさ」では、以前配達していたメイトさんから、団地の住人や転入した家の名前を細かく書き込んだ、

小さな手帳と地図を受け継いでいます。この手帳は、みんなが「魔法のノート」と呼ぶほど、便利な虎の巻。配達の際にも持参し、不明なことはすぐにチェックしています。手帳と地図は使いながら少しずつ更新。どちらも「つばさ」のたからものです。

配達が好きと語る キラキラした目に感動

ヤマト運輸川崎主管支店 サービスセンター半田浩章センター長は「何度も確認することが基本となっていて、それが誤配ゼロにつながっています。一生懸命さを再認識しました」とつばさの仕事ぶりを高く評価します。

ヤマト運輸川崎主管支店 宮前野川支店 畠山直己支店長は「イキイキと配達していることが伝わってきます。配達が好き、と言っていたと



▲右/「自分のペースで、一人一人の能力を伸ばしていってほしい」と「つばさ」加藤昭和所長。左/「端末機を使ってみたい。地図を見るのが好き。理由はさまざまですが、「DM便をやりたい」と施設に入ってくる利用者さんがとても多い」と山戸幸大副主任。

▶前列左から/榎野剛さん、小松治輝さん、井上克貴さん、飯出翔吾さん、今野満幸さん、森恒春さん、職員 松尾エツ子さん 後列左から/職員 阿久津真由美さん、「つばさ」加藤昭和所長、ヤマト運輸川崎主管支店 宮前野川支店 畠山直己支店長、ヤマト福祉財団 南関東支部 余田真澄事務長、ヤマト運輸川崎主管支店 サービスセンター 半田浩章センター長、山戸幸大副主任



「つばさ」は3年前に、ヤマト運輸関東支社から「DM便誤配ゼロチャレンジ」の年間誤配ゼロ達成で表彰されました。この受賞をみんなが誇りに思い、その後も確認と工夫を積み重ねています。それぞれのつばさでより大きく羽ばたけるように。一人一人の能力を活かしながら、誤配ゼロへのチャレンジは今日も続いています。

きのキラキラした目に感動しました。これからも笑顔で楽しく続けてほしい」と期待を込めて話しました。

1月16～18日「楠元塾(第2期) 第3回見学・勉強会」

1月16・17日 (一社)おひさま いいはたらくばトポス

整理整頓ができていないと無駄なコストもかかってしまう。

1月16～18日、楠元塾は二つの塾生施設で見学・勉強会を行いました。16・17日は、茨城県牛久市の「いいはたらくばトポス」へ。「料理は、どれも美味しい」と楠元塾長。「これからの季節、より気をつけてほしいのは衛生管理です。前日に用意した煮物は、詰める前にもう一度火を通してください」とアドバイスしました。「醤油などボトルにシールを貼り、古いものから順に使うこと。賞味期限が切れたら捨てるしかない、それはお金を捨てるのと同じですよ」と棚卸しの大切さを伝えました。



いいはたらくばトポスでは、作業効率を上げる動線や9マス弁当の盛り付け方などもアドバイス

1月18日 (社福)人間東部福祉会 ハーモニー

衛生管理は、飲食業の基本。段階的にでも改善を進めてほしい。

埼玉県入間郡にある「ハーモニー」は、三芳町の文化会館内で福祉喫茶ハーモニーを運営し、弁当の販売も行ってあります。利用者さんの仕事をみて楠元塾長は「コロックも随分と上手に揚げていて、職員の指導が良いのだとわかります」。今後の課題はやはり衛生管理だと指摘。「どこで靴を脱ぎ、スリッパに履き替えるのか。手洗いは自動化して洗浄・消毒液を決められた量と時間で毎回行えるようにする。これは気をつけるべきことの一部に過ぎません。いまから段階的に改善していってください」と全塾生にアドバイスしました。



楠元塾長にアドバイスを受けながら、盛り付けをする利用者さん

1月24・25日「楠元塾(第2期) 第4回見学・勉強会」

(NPO)ふれあい キャッチボール

収支管理を理解し、目標が見えれば職員のモチベーションも上がってくる。

第4回見学・勉強会で訪れたのは、宮崎県東臼杵郡にある「キャッチボール」。事業所の職員も参加し、原価計算や収支管理などを1から学ぶことに。これによりいくつ弁当を販売するかや、売上の数字目標も明確になりました。早速、新規顧客開拓や新商品の開発に取り組んでいます。

3月13～15日「楠元塾(第2期) 第5回研修会」

3月13・14日 (社福)小国町社会福祉協議会サポートセンター悠愛 就労支援センター陽なたぼっこ

高齢者施設への配食サービスにも力を入れ残り半年間で各人の目標の達成を。

3月13・14日、楠元塾2期生の第5回研修会を熊本県阿蘇郡の「就労支援センター陽なたぼっこ」で行いました。塾生施設見学では最後の事業所です。陽なたぼっここの売上の柱は、高齢者への配食サービス。楠元塾長は「私たちがとろみ食や刻み食など他の弁当屋さんでは対応できない高齢者食をつくります。陽なたぼっこのように、高齢者宅に配食するのは大変ですが、施設にまとめて届けるのなら効率的。残り半年、利用者さんの給料増額へ、できることはなんでもやってみよう」と伝えました。



「一度に盛り付ける弁当の数を減らし、できたものから早く配達に出られるように」と指摘を受けました

3月15日 (NPO)夢・さぼーと お弁当のかず味

お客様が求めている商品こそより喜んでもらえる工夫を添えて提供。

翌日は、同じ熊本県の宇城市でお弁当のかず味を運営する楠元塾1期生「夢・さぼーと」へ。美しい盛り付け、仕事場でキビキビと働く利用者さんの姿など、「さすがに先輩だけありますね。いいものを作っています」と楠元塾長。「なぜもっと売上が伸びないのか不思議。人気の唐揚げを、300円のおかずではなく、もう一品足して380円のおかずとして販売すれば良いのでは?お客様が求めている商品をどう売るか。工夫次第で売上は変わりますよ」とアイデアを出しました。



夢・さぼーとでは、厨房が狭いため、弁当の盛り付けはこまめに行うようになっています

歴代最多19名、 新社会人の門出を祝福



「これからお世話になる方たちにありがとうの言葉を伝えるとともに、たくさんの方がとうもらってください」と高橋業務執行理事



今年の10年勤続表彰は3名。長く働き続けるにはなにが大切か、先輩方の働き方などを教えてもらいました



瀬戸理事長は「誰かが休んでも君がいるから安心だと頼りにされる、そんな存在に成長してください」と呼びかけ、平成30年度卒業生19名(うち欠席5名)に修了証書を贈りました



スワン工舎羽田の新卒者は6名



スワン工舎新座の新卒者は13名

2月16日、埼玉県の志木市民会館パルシテイで(社福)ヤマト自立センターの「第11回卒業者の集い」を開催しました。平成30年度卒業生は19名と歴代最多の人数です。その門出をご父兄や歴代卒業生など総勢120名が祝いする賑やかな会となりました。

2年間の訓練と頑張りを糧に 社会人として働く第一歩を

(社福)ヤマト自立センターでは、2年間で就労のための訓練を行い、企業に就労することで卒業になります。これまでに輩出してきた卒業生は、平成30年度卒業生19名を加えると180名(重複利用者は除く)に。今回のお祝いには、卒業生81名も駆けつけています。

開会の挨拶で瀬戸理事長は「会場のうしろまで一杯になるほどたくさんの方が集まってくれました。この会場が狭くなるほど卒業生が増えてきたことをうれしく思います」と伝えました。

新社会人となった卒業生は、瀬戸理事長から修了証書を受け取ったあと、それぞれの近況を報告しました。

JFEビジネスサポート横浜株式会社で働きはじめた渋谷直樹さんは、会議機の清掃や使用するコピー機の清掃、紙補充などを行っています。「体をかなり動かすので疲れませんが、仕事を終えたあとには達成感があります」。

介護の職業訓練を受け、初任者研修の資格を取得した柳田樹人アルトゥールさんは、特別養護老人ホームで働くことが決定。「いままで施設見学やボランティアをしていましたが、いよいよ来週から働きはじめます」と意欲満々です。

長野計器株式会社に勤める鈴木あやさんは、清掃と事務補助を担当しています。「いろんな方から支援を受けて2年間頑張ることができ、やっと会社勤めができるようになりました。社員の方からも温かいお気遣いをいただき、ここなら働き続けることができそうだと感じています」と感謝の気持ちを伝えました。

卒業してもスワン工舎はずっとみなさんの応援団です

続いて勤続10年を超える3名の先輩たちの表彰と近況報告へ。かっぱ寿司川越店で働く矢島秀和さんは新座店から川越店に異動し、環境が変わっても元気に働き続けています。「シャリを炊いたり、茶わん蒸しやいなり寿司などを作っています。お正月は大忙しでした」。そんな先輩たちの活躍する姿は、新社会人として一歩を踏み出した彼ら、彼女らの良なお手本となっています。

その後の懇親会で(社福)ヤマト自立センターの高橋正浩業務執行理事は「みなさんは、2年間たくさんの方の周りに支えられてきました。でも一番頑張ってきたのは、ご自身だと私たちは知っています。これからは、いままでは違っていたいろいろな苦労があると思います。スワン工舎は、ずっとみなさんの応援団です!」と挨拶。すべての卒業生を、いつまでも見守り、支え続けたいと伝えました。

株式会社プラザクリエイトスタッフサービス／プリントショップ・携帯ショップ等の経営を行う(株)プラザクリエイトの特例子会社。和光プリントセンターで14人の障がい者従業員が働いています(2019年2月現在)。



作業場で、確田裕介さんと長田美和さん(右)

チャレンジしてよいですか？ 練習してよいですか？

日々の仕事を重ねることで前向きに変化してきた確田裕介さん。苦しい作業も積極的に挑戦、この仕事を長く続けたいと話しています

■ヤマト自立センター スワン工舎 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

確田裕介さんはこの工場の一期生。七五三や成人式の時にスタジオで撮影した写真をアルバムにまとめる台紙貼り、マグカップの検品や出荷前の完了登録、キーホルダーなど、ほぼ手作りの生産業務を担当しています。

確田さんの上司であり、精神保健福祉士の長田美和さんは、確田さんについて

「トライアルを含めて8カ月。作業が上手になってきたし、スピードも速くなってきました。実習の時は商品ができていくのに、自分ではで

仕事の姿勢が前向きに

全国に展開するDPEのバレットプラザから受注しアルバムや雑貨などを生産する(株)プラザクリエイトの和光プリントセンター。昨年、葛飾から和光に拠点を移した工場の3階に(株)プラザクリエイトスタッフサービスがあります。



空気で埃を払いながらつくる、写真入りキーホルダー

マグカップの前検品作業

確田 裕介 さん 株式会社プラザクリエイトスタッフサービス(平成30年9月1日入社)

確田さんの好きな音楽はアニソン『名探偵コナン』。休みの日はお父さんとゲームで対戦しているそうです。

「今まではサポートする私たちが作業の準備をしていましたが、最近は段取りをするところからスタッフに任せています。みんなのやれることが増えているので、工場や会社としても、一般の社員に混じって仕事ができるのではないかと、期待されるところです」と長田さん。

確田さんも、実習中の先輩にやさしく仕事のやり方を教える頼もしい存在となってきました。

「きいていない、無理です」という不安な状態でのスタートだったので、自分でできたと思えるのはいつだろうと、見守っていました。そうしたら、毎日、数をこなして重ねることで『できそうな気がします↓やろうと思えます↓やってみます』と、変化してきたんです。苦しい作業も、こちらが配慮していると『練習してよいですか？』と、諦めずにチャレンジしようとする気持ちが出てきました。大きな成長です」と話します。



「人に教えることは、決して得意ではないと思いますが頑張っていますよ」と長田美和さん

YWF TOPICS

ネパール小児白内障治療プロジェクト 斜視矯正手術を行いました



英語の勉強が好きなピサル、右目が特に悪い。術後、祖母と病室で



斜視と弱視の重複で早めに手術が必要だったマビシュ、術後の検査をするDr.サビナ(写真右)

昨年12月にネパール、ダーディン郡の二つの学校で行われたアイキャンプ。そこで要手術の診断を受けた3人の子どもたちが、2月にカトマンズ医科大学で斜視矯正手術を受けました。その後の視力検査では視力が向上したことを確認しています。

ステップアップセミナー、2カ所で開催

広島会場6月8日、山口会場6月15日



知的障がいのある利用者の働く力を伸ばすためのノウハウや、仕事に取り組む環境づくり、仕事の流れを分析し生産性を高める「ライン・工程方式」などを学ぶセミナーです。講師はヤマト福祉財団が主催する実践塾塾長の新堂薫氏と、アドバイザーの菅野敦東京学芸大学教授。事例報告として成果を上げた塾生卒業生も登壇します。利用者の能力向上に関心のある方はぜひご参加ください。

「きょうされん」結成40周年記念映画 順次全国上映へ 星に語りて ~Starry Sky~

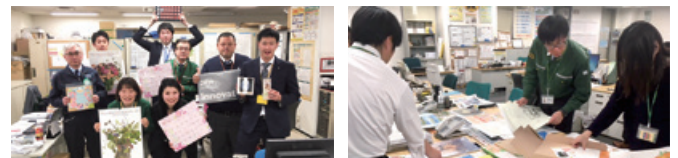


2011年3月11日、マグニチュード9.0、我が国観測史上最大の地震が発生しました。東日本大震災です。その時、障がいのある人と支援者達はどんな状況に遭遇したのでしょうか。避難所に入れず配給の食べ物もない。支援する団体も「個人情報保護法」に阻まれ、障がいのある人たちの安否が確認できない——。この映画は、当時を知る人たちへの取材を元に私たちの知らなかった実情を描きます。

「きょうされん」の結成40周年記念映画として3月から全国で順次上映開始。上映日程等、きょうされんホームページをご確認ください。

<http://www.kyosaren.or.jp/starrysky/#about>

カレンダー販売にご協力いただき、 ありがとうございます



今年も伊東屋さま(東京・銀座)からカレンダーのご寄付をいただきました。それを各支社・主管支店で販売し、売上の241,514円を(社福)ヤマト自立センターに寄付いたしました。伊東屋さま、ヤマトグループのみなさま、ご協力ありがとうございました。

「夢へのかけ橋」実践塾

第4期新堂塾、第3期楠元塾

(弁当・配食サービス実践塾)を募集します

ヤマト福祉財団小倉昌男賞の受賞者を塾長として、施設職員向けの研修を、「夢へのかけ橋」実践塾として実施してきました。2019年9月開講予定の「夢へのかけ橋」実践塾から、二つの塾の募集です。高工賃、利用者の能力向上を目指す方のご応募をお待ちしています。

▼第4期新堂塾：仕事の流れを分析し、生産性を高める「ライン・工程方式」を学び、働く能力を育て高工賃を実現

▼第3期楠元塾(弁当・配食サービス実践塾)：日替わり弁当を中心に、メニューの管理から高齢者向け配食事業まで、PDCAサイクルを回して成果を出す取り組み

ステップアップセミナー・「夢へのかけ橋」実践塾のお申し込み・お問い合わせはヤマト福祉財団まで

ホームページ <https://www.yamato-fukushi.jp/> TEL 03-3248-0691



グスタフ・クリムト《エミーリエ・フレゲの肖像》
1902年 油彩/カンヴァス 178 x 80 cm
ウィーン・ミュージアム蔵 ©Wien Museum / Foto Peter Kainz



エゴン・シーレ《自画像》
1911年 油彩/板 27.5 x 34 cm
ウィーン・ミュージアム蔵 ©Wien Museum / Foto Peter Kainz



オットー・ヴァーグナー《カール・ルエーガー市長のための椅子》
1904年 ローゼンウッド、真珠母貝による象嵌、アルミニウム、革
高さ：99 cm、幅：63 cm
ウィーン・ミュージアム蔵 ©Wien Museum / Foto Peter Kainz

モダニズム
「近代化への過程」の視点からひも解く「世紀末芸術」

19世紀末から20世紀初頭にかけて、ウィーンでは絵画や建築、工芸などの分野で「世紀末芸術」と呼ばれる独自の文化が開花しました。画家グスタフ・クリムト(1862-1918)やエゴン・シーレ(1890-1918)、建築家オットー・ヴァーグナー(1841-1918)、デザイナーのコロマン・モーザー(1868-1918)などが登場し、モダン・アート、モダン・デザインの黄金期を迎えます。

この世紀末文化は突如誕生したものではなく、18世紀に蒔かれた種が19世紀末に開花・結実したものと云えます。18世紀の女帝マリア・テレジア時代の啓蒙思想が発展し、ウィーンのモダニズム文化の萌芽となって19世紀末の豪華絢爛な芸術運動へとつながったのです。本展はこの「近代化への過程」の視点からウィーンの「世紀末芸術」をひも解く新しい試みの展覧会です。

■ 本展の三つの特長

一つ目は、本展は絵画、建築、応用芸術、音楽などのウィーンの芸術文化の全容が分かる総合展となっていることです。二つ目は、総作品数約400点(東京展)という圧巻の作品群。その中にはクリムト47点、シーレ22点、ココシュカ17点などウィーン世紀末巨匠画家の傑作も集結しています(いずれも東京展)。三つ目は、改修工事に伴い、ウィーン・ミュージアムの至宝が一堂に会することができたことです。

他にも建築ファン、音楽ファン、ファッション好き、歴史好きな方々にとってもウィーンの魅力が満載の展覧会です。どうぞお楽しみください。

本展はヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社が作品の輸送・展示をしています。

DATA

開催期間 ▶ 2019年4月24日(水)～8月5日(月)
休館日 ▶ 毎週火曜日 ※ただし、4月30日は開館
開催場所 ▶ 国立新美術館 企画展示室1E(東京・六本木)
アクセス ▶ ■東京メトロ千代田線「乃木坂駅」青山霊園方面改札6出口(美術館直結)
■東京メトロ日比谷線「六本木駅」4a出口から徒歩約5分
■都営地下鉄大江戸線「六本木駅」7出口から徒歩約4分
※美術館に駐車場はありません
開館時間 ▶ 10:00～18:00 ※毎週金・土曜日は、4・5・6月は20:00、7・8月は21:00まで開館

4月28日(日)～5月2日(木)と5月5日(日)は20:00まで開館
※最終入場は閉館30分前まで

観覧料 ▶	一般	大学生	高校生
当日	1,600円	1,200円	800円

※中学生以下無料
※障がい者手帳をお持ちの方と付添の方1名まで無料となります

主催 ▶ 国立新美術館、ウィーン・ミュージアム、読売新聞社

後援 ▶ 外務省、オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム、ウィーン市、ウィーン市観光局

特別協賛 ▶ キヤノン

協賛 ▶ 花王、大日本印刷

協力 ▶ ANA、DNPアートコミュニケーションズ、ヤマトグローバルロジスティクスジャパン、ルフトハンザカーゴAG

問い合わせ先 ▶ TEL 03-5777-8600(ハローダイヤル)

https://artexhibition.jp/wienmodern2019/

巡回情報 ▶ 大阪展 国立国際美術館

2019年8月27日(火)～12月8日(日)

2019年度 障がい者の働く場パワーアップフォーラムのお知らせ

全国3会場で開催

福岡会場(エルガーラホール)

7月12日(金)10時～17時

テーマ：より高い賃金を目指して

障がい者の働く場がより高い賃金を目指すために必要なことは何か。食品製造、軽作業、配食サービスを事例とし、品質や生産性の追求と福祉の関係について理解を深めていきます。

東京会場(全社協・灘尾ホール)

7月26日(金)10時～17時

テーマ：「共に働き共に生きる」障がい者の働く場

「経済的自立力を備えた経営」の実現、働くことの価値をどうとらえるのか。単に障がいだけでなくさまざまな事情を抱えた人たちが集う働く場について、深く掘り下げていきます。

大阪会場(マイドームおおさか)

8月23日(金)10時～17時

テーマ：障がいのある人が働く場に求めていること

障がいの特性にあわせて能力を育てる。地域とつながりをつくる。将来の夢に耳を傾ける。障がいのある人が働く場に求めていることに真摯に応える事業所づくりについて掘り下げます。

お申し込みについて

参加対象：福祉施設関係者、本人、ご家族他、障がい者の働く場づくりに関心のある方が対象です

参加定員：各会場200名

費用：参加費無料・昼食500円(事前予約のみ)

参加登録方法：詳しくはヤマト福祉財団のホームページをご覧ください

